

治療法		メリット	デメリット	癌組織
ガン抗原認識型活性化リンパ球療法	兵隊 (何%かはガンを認識)	ガン抗原を認識させ、ガン組織に集まりやすいリンパ球を何%かの比率で増殖できる LACと同様の効果も同時に期待できる	何%の兵隊が認識しているか分からない、ガン組織が必要	必要
活性化リンパ球療法 (LAC)	兵隊 (盲目的)	早期にリンパ球の数を増やすことが可能であり免疫力を全体的に向上させる免疫療法 誰でも受けることができる 微小な癌に対してよい適応と考えられ、術後の再発予防や延命を目的とした使用に効果	非特異的で、ガンへの集積率、ガン縮小率が悪い	不必要
樹状細胞療法	教育係	自分の癌を狙い撃ちすることができる強い免疫反応が期待できる 体内で教育者を大量に入れることにより、体内のリンパ球に教え込むことができる。投与回数が少なくてすむ	値段が高い、培養に時間がかかる、増殖させすぎた樹状細胞には樹状する能力がなくなる	必要
NK細胞療法	殺し屋	ガンに攻撃性を持った細胞を選択的に増殖させる	培養に時間がかかる。非特異的で、ガンへの集積率、ガン縮小率が悪い	不必要
DC+LAC	兵隊 + 教育係	教育係と兵隊を同時に投与できる LACの効果も同時に期待できる	値段が高い、培養に時間がかかる、増殖させすぎた樹状細胞には樹状する能力がなくなる	必要

樹状細胞療法

【腫をつぶす】 【腫の進行を止める】 【術後の再発予防】 【QOLの維持】

世界中で臨床研究がなされており、臨床的な有用性が得られるという報告も多数出ています。臨床研究では多くの種類の癌を対象として行われており、治療選択肢がなくなった多くの癌患者様を対象にこの療法が行われています。

例) 悪性黒色腫 (約20% ~ 約40%)、腎細胞癌 (約10% ~ 約40%)

卵巣癌 (約10% ~ 約45%)、前立腺癌 (約20% ~ 約30%)

甲状腺癌 (約14% ~ 約60%)、大腸癌 (約14% ~ 約16%)

胃癌 (約22% ~ 約25%)、乳癌 (約17% ~ 約50%)

(内は、これまでの論文を参考に癌の退縮または進行を止める効果の割合を示しています。)

活性化リンパ球療法

【術後の再発予防】 【腫の進行を止める】 【QOLの維持】

この療法は約20年前より開始されましたが、皮膚癌、腎臓癌の再発に対して約20%から30%程度の癌の進行が止まるといふ効果が得られています。また国立癌センターの臨床研究では、原発性肝臓癌の手術後に再発予防として本療法を使用したところ、効果が得られたという報告がされています。ほかには癌性胸膜炎、癌性腹膜炎による胸水、腹水に対して効果があり、一次的に胸水あるいは腹水を減量、消失させることができます。

劇的に効果のある治療法ではありませんが、癌の再発予防、あるいは癌の進行を止めることを目的として、外来通院で日常生活を犠牲にすることなく受けることができる治療 (QOLの維持)といえます。

LAK療法は、癌が比較的小さい場合、特に手術後の再発予防により適応と考えられます。手術前に治療計画をお立てになることをお勧めします。

最近、悪性黒色種と肥満細胞種にガン縮小が見られた症例が2,3存在しよい感触があります。すべてのがんに効くような魔法の薬ではありませんが、他の進行ガンでもある程度コントロールできているものも存在しています。今後、どのガンには得意で、どのガンには効果が少ないといったデータを早く出していくことが、獣医の皆様が使いやすくなる近道だと思っております。是非先生にもご協力頂けると、今後の獣医医療発展のためにも、大変嬉しく思います。